

広報

うわじまちくしょうぼう

第79号

宇和島地区消防本部
宇和島地区防火協会
<http://www.119.uwajima.nanpu.or.jp/>

秋の火災予防運動

11月9日(水)～11月15日(火)

「消しましょう その火その時 その場所で」

【住宅防火 いのちを守る 7つのポイント】

- 3つの習慣
 - 1 寝たばこは、絶対やめる。
 - 2 ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
 - 3 ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- 4つの対策
 - 1 逃げ遅れを防ぐために、**住宅用火災警報器**を設置する。
 - 2 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、**防災品**を使用する。
 - 3 火災を小さいうちに消すために、**住宅用消火器等**を設置する。
 - 4 お年寄りや身体の不自由な人を守るために、**隣近所の協力体制**をつくる。



平成28年上半期の火災・救急速報

火災概況



平成28年上半期の宇和島地区管内で発生した火災は14件で、前年の21件に比べ7件の減少となっています。また、月平均出火件数としては2.33件となり、およそ13日に1件の割合で火災が発生したことになります。火災種別では、建物火災9件、その他火災5件となっています。出火原因では、たばこ3件、放火の疑い2件、アセチレン切断機2件、たき火、枯草焼き、配線器具、電灯電話等の配線、かまど、フライヤー、小動物ヒーターがそれぞれ1件となっています。



救急概況



平成28年上半期の救急出場件数は2,377件で、前年の2,263件に比べ114件の増加となっており、搬送人員も2,250人と前年の2,113人に比べて137人増加しています。また、1日あたりの平均出場件数は13.1件で、1日あたりの平均搬送人員は12.4人となっています。

事故種別では、最も多いのが急病で1,678件、次いで一般負傷330件、転院搬送208件、交通事故119件などとなっています。なお、**救急車で搬送された人の約40%は軽症**です。この中には、本来、救急車が必要でなかった人や、救急車をタクシー代わりに利用する方も含まれている可能性があります。



平成28年度甲種防火管理新規講習を開催

去る10月12日(水)、13日(木)の両日、消防本部4階大会議室において、平成28年度甲種防火管理新規講習を開催しました。この講習は、防火管理の意義と制度、火災の基礎知識や防火管理の進め方など防火管理者として必要な知識を習得するもので毎年実施しています。今年も83名の受講者が熱心に受講され甲種防火管理者としての資格を取得されました。

今後、この方々が防火管理者の自覚を持ち、防火、防災のリーダーとしてご活躍されることを期待しています。



幼年消防クラブ員が煙の怖さを体験しました!

10月6日(木)、宇和島市夏目町にある尾串保育園において、尾串幼年消防クラブ員(約60名)が煙の充満した煙体験ハウスの中を通り抜ける「煙体験」を実施しました。

火災時に発生する煙は、視界を妨げるだけでなく、有毒な物質である一酸化炭素が多く含まれています。火災によって亡くなられる方の大半が一酸化炭素中毒によるもので、煙を吸引することによって頭痛やけいれんなどを引き起こし、体の自由が奪われることで火災からの避難が困難となり逃げ遅れてしまいます。

煙の充満したハウス内に複数のクラブ員同士が手を繋ぎ、恐る恐る入っていく姿が大変印象的で、中には泣き出してしまうクラブ員もいましたが、煙の怖さを身をもって体験することができたのではないのでしょうか。また、当日は消防車の見学も行われ、みんなが大好きな消防車を間近で見ることができました。今後も、このような事業を継続して実施していきたいと考えています。



★消防本部からのお知らせ★

住宅用火災警報器は、**10年を目安に交換をおすすめします!**

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。**10年を目安に交換しましょう。**

〔設置時期を調べるには〕

火災警報器を設置したときに記入した「設置年月」または、本体に記載されている「製造年」を確認してください。



住宅用火災警報器に関するお問い合わせは

宇和島消防本部 予防課 0895-22-7501 まで